

采女伝説

原作：うねめまつり実行委員会参考文献
脚本：ブラウンライス 玄
作曲：ブラウンライス 米
語り：玄と米

収録時間:11分32秒

あらすじ

時を遡ること1300年ほど前、陸奥国 安積の里（みちのくのくに あさかのさと）を治める郡司は「安積の臣 虎麻呂」という人物でありました。その娘を春姫と申しました。肌の色は綿雪のように白く切れ長の黒い瞳は宝石のように澄んでいました。春姫には次郎という許嫁がおりました。幸せな二人がいつも出向くのは山の井の清水。心の底から愛し合う二人を引き裂く事件が起こります。冷害の続く安積の里は朝廷への貢ぎ物が途絶えておりました。そこで朝廷から調査のために遣わされた葛城王がやってまいります。虎麻呂の屋敷では葛城王を饗す宴が賑やかに始まりました。しかし貢物が納められないという虎麻呂の報告に葛城王は怒り始めました。そこに春姫が登場します。春姫は片手に酒の盃、片手に水の盃を差し出します。一計を案じ水の盃を葛城王に飲ませます、そして春姫は歌を詠みました。

安積山 影さえ見ゆる 山の井の 浅き心を 吾が思わなくに

山の井の清水は安積山の影さえ映すように浅く見えますが実はとても深いのです。安積の里の者たちはみな山の井の清水のように透明で深い心で帝をお慕いしておりますと葛城王に貢物の免除を頼んだのでした。歌道に造詣が深い葛城王は春姫をたいそう気に入り3年間の貢物の免除する代償として帝に仕えるよう命令します。春姫は里のために奈良の都に上がります。美しく聡明な春姫は帝に寵愛を受けましたが里に残された次郎は寂しさのあまりに山の井の清水に飛び込み自殺してしまいます。春姫もそれを知り安積の里に逃げ帰り、山の井の清水に身を投げて死んでしまいます。その翌年まるで二人の生まれ変わりのように、山の井の清水のあたり一面には「花かつみ」が咲き乱れたそうです。

協力：うねめまつり実行委員会 

ブラウンライスファンクラブ東北

花かつみ

作詞：ブラウンライス 玄
作曲：ブラウンライス 米
収録時間:5分40秒

遙か 遙か みちのくの国 美しき娘 名は春姫

都の王にみそめられ 采女になったそうな

和歌（うた）を詠み 国を守り

愛しき人に詠うこの歌

赤い糸 細きこの糸 たぐりよせ 絆を紡ぐ

春は幾年 訪れて 咲き乱るは 花かつみ

永遠に（とこしえ）に 想う心は

消えることなき 安積の里に

赤い糸 細きこの糸 たぐりよせ 絆を紡ぐ

赤い糸 細きこの糸 たぐりよせ 絆を紡ぐ

2012年12月1日

録音・編集・マスタリング：翼すたじお

CD製作：越谷 cdot スタジオ

制作・著作：ブラウンライス

BrownRice (玄米)

■このCDを権利者の許諾なく複製・レンタル目的・インターネット上のネットワーク配信サイト等へ配布、またネットラジオ局等へ配布することを禁止します。

